

事業所名	グループホーム長寿の郷邑久 (クリックすると事業者の情報にリンクします)
日付	平成19年 1月15日
評価機関名	㈱東京リーガルマインド (クリックすると評価機関の情報にリンクします)
評価調査員	A:現職 看護師 資格・経験 看護師、介護支援専門員 B:現職 元看護師 資格・経験 看護師(35年)、介護支援専門員
自主評価結果を見る	(事業者の自主評価結果にリンクします)
評価項目の内容を見る	(評価項目にリンクします)
事業者のコメントを見る(改善状況のコメントがあります!)	(事業者情報のうち評価結果に対する事業者コメントにリンクします)

I 運営理念

番号	項目	できている	要改善
1	理念の具体化、実現及び共有		
記述項目	グループホームとしてめざしているものは何か(記述)		
	<p>理念として、「老いは選べられず、人はすべて親から生まれ、親の苦労によって育てられた。人生の最期まで人間としての尊厳が大切にされる社会を求め、私たち援助者は、誠心誠意努力します。」を掲げ、入居者を自分の親として大切に家族としてのあり方を重視している。</p> <p>基本方針として、「1 尊厳の確保と自立支援 2 施設は家庭 3 規律の遵守」を掲げ、基本方針を更に深く、具体的に実施しやすいようにしており、ゆったりとした家庭的な環境の中で安定した明るい共同生活を目標としている。</p> <p>地位との交流を大切に、散歩道での近隣との触れ合い、ホームの夏祭りへ近隣の方を招待し、教会へ招待されるなど、充実した社会生活ができるように支援している。</p> <p>職員は認知障害を深く理解しており、入居者と自然体で、人間対人間の関わりの中での個性の尊重を大切に、熱意をもって、入居者一人ひとりと向かい合って介護するよう取り組んでいる。</p>		

II 生活空間づくり

番号	項目	できている	要改善
2	家庭的な共用空間作り		
3	入居者一人ひとりに合わせた居室の空間づくり		
4	建物の外回りや空間の活用		
5	場所間違い等の防止策		
記述項目	入居者が落ち着いて生活できるような環境づくりとして取り組んでいるものは何か(記述)		
	<p>玄関周りにはスロープを施し、エレベーターも設置している。居間からすぐ庭に出られ、花壇いじりや四季折々の風景を楽しむことが出来る。居間の入り口のドアはスリガラスの格子戸で、居間の床の間は掛け軸や置物などがすっきりと飾られており、家庭的な雰囲気ですっきりとした感じがする。</p> <p>共用空間は広く、居間には、ソファやテーブル、カラオケ、輪投げゲームなどがあり、メインリビングとは別に廊下の片隅には喫煙コーナーもある。一人でもくつろげるようになっており、入居者本位に考えられている。</p> <p>男の方でお酒の習慣のある方には、ホームの管理のもとに少量を晚酌して飲むことが許可されていた。また、飼いなれていたペット(チワワ)を本人の希望と周囲の了解のもと飼うことも許可されており、各々の家庭の延長線での生活が保たれている。</p>		

III ケアサービス

番号	項目	できている	要改善
6	介護計画への入居者・家族の意見の反映		
7	個別の記録		
8	確実な申し送り・情報伝達		
9	チームケアのための会議		
10	入居者一人ひとりの尊重		
11	職員の穏やかな態度と入居者が感情表現できる働きかけ		
12	入居者のペースの尊重		
13	入居者の自己決定や希望の表出への支援		
14	一人で行えることへの配慮		
15	入居者一人ひとりにあわせて調理方法・盛り付けの工夫		
16	食事を楽しむことのできる支援		

外部評価の結果

講評
全体を通して特に良いと思われる点など(記述)
<p>ホームの西には吉井川の清流、河川公園も近く、北にはゴルフ場のグリーンが広がる、緑の野原に囲まれたのどかな環境の中に「グループホーム長寿の郷邑久」がある。ホーム内には、菜園・花壇があり、自然と親しみながら家庭的で自分らしい生活が出来る。散歩の折には、近所の方に干し柿をいただく等、近所付き合いもある。高齢者の身体的状況や生活パターンをよく理解したきめ細やかなホームの設計で、設備も整っている。エレベーターは両面開閉で、直線的に乗り降りできる。トイレは3ヶ所あり、左右どちらからでも対応出来るようになっている。</p> <p>代表者と管理者は、認知症高齢者のグループホームとして、「個々の生活を大切にしたい家庭的な雰囲気のある環境と介護運営」に力を入れている。高齢者を家族として迎え入れ、「自分の親だったらどうして欲しいか」、「自分だったらそこにいたいか」を常に意識しながら介護をしている。また、入居者の心が落ち着くように、「どんなことをしたら心が落ち着くのか」など、個々の気持ちの把握に努めてケアすることを重視している。職員も家族の一員であり、仕事を終えて帰宅する時も、「失礼します。さようなら。」ではなく、「行ってきます。」と入居者に声掛けするなどの気配りをしている。入居者と職員の自然な会話が増え、全体的に開放的で明るく、入居者と職員が共に生活を楽しくしており、家族としての幸せがほのぼのと感じられるホームであった。</p> <p>認知症のホーム開設は3施設目で、ホーム運営のノウハウを豊富に持っている。代表者は、認知症の専門研修も受けられており、職員の研修の機会を増やすことにより、人材育成にも力を注いでいる。また、NPO法人「世界平和支援協会」の副理事長で、海外ボランティア活動も行っている。フィリピンの路上生活児童を招待したこともあり、将来的にはフィリピンからの介護職員を受け入れる展望もある。</p>
特に改善の余地があると思われる点(記述)
<p>ホーム開設1年目にもかかわらず、理念の実現への徹底から家族会の運営規程に至るまでの体制作りがきちんとされている。これらを地域の方へ情報発信し、今後も認知症介護の啓蒙に努められることを期待する。</p>

III ケアサービス(つづき)

番号	項目	できている	要改善
17	排泄パターンに応じた個別の排泄支援		
18	排泄時の不安や羞恥心等への配慮		
19	入居者一人ひとりの入浴可否の見極めと希望にあわせた入浴支援		
20	プライドを大切にされた整容の支援		
21	安眠の支援		
22	金銭管理と買い物物の支援		
23	認知症の人の受診に理解と配慮のある医療機関、入院受け入れ医療機関の確保		
24	身体機能の維持		
25	トラブルへの対応		
26	口腔内の清潔保持		
27	身体状態の変化や異常の早期発見・対応		
28	服薬の支援		
29	ホームに閉じこもらない生活の支援		
30	家族の訪問支援		
記述項目	一人ひとりの力と経験の尊重やプライバシー保護のため取り組んでいるものは何か(記述)		
	<p>入居者の生活歴・経験を踏まえ、残存機能に合わせた楽しみ・生きがいを支援し、人が自然に生きられるような環境作りを努めている。少しでも出来ると共に喜び、褒めることで徐々に自立度が上がり、車椅子全介助の方が自立でつかり歩行できるようになったケースもある。</p> <p>認知症だからできないという先入観を無くし、編み物やお花などの趣味を生かし、塗り絵などの適度な作業を通して日常生活の意欲、希望の表出に繋げている。完成した作品を居室の入り口に飾るなど、達成感が抱けるように援助している。</p> <p>入居者の記録類は、事務室の鍵のかかる所に保管している。業務日誌には入居者の番地で記載するなど個人情報の保護に努めている。</p>		

IV 運営体制

番号	項目	できている	要改善
31	責任者の協働と職員の意見の反映		
32	家族の意見や要望を引き出す働きかけ		
33	家族への日常の様子に関する情報提供		
34	地域との連携と交流促進		
35	ホーム機能の地域への還元		
記述項目	サービスの質の向上に向け日頃から、また、問題発生を契機として、努力しているものは何か(記述)		
	<p>管理者と職員は、「入居者の尊厳、家族としての接遇を大切に。」を基本に、入居者本位のその人らしさを支援し、常に基本に立ち返り、理念を具現化して良いケアに反映するよう努めている。</p> <p>日常の記録は、入居者の状況とそれに対する職員の援助が良く分かる。ケアの方針に沿って評価するなど、現在も良い記録であるが、質の向上を目指した個別ケアの提供に繋がる記録になるよう、更に改善しようとする姿勢がみられる。</p> <p>代表者は、職員一人ひとりの資質を把握し、職員個々の特徴を入居者の援助の場面に生かしており、全体の「和」が保たれている。</p> <p>管理者が中心となり、ヒヤリハットを洩らさず積極的に記録している。それを検討分析することにより、問題発生防止に繋げている。</p>		